

三陸新報

メカジキの魅力伝える

魚を給食に普及する会 九条小で食育授業 気仙沼

「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」(白井壯太郎代表)は4日、気仙沼市立九条小学校(山本正美校長)で食育授業を開き、気仙沼港が日本一の水揚げを誇るメカジキの魅力伝えた。

同会は復興庁の「新しい東北」先導モデル事業に選ばれ、食育を通して子供たちに水産業への理解を深める活動をしている。

この日は、「気仙沼の魅力発信しよう」をテーマに6年生61人が参加。今年3月まで

遠洋マグロはえ縄船第78昭福丸(白福本店)の漁労長を務めた田名網路晴さん(63)らが講師を務めた。

田名網さんは、船の模型やはえ縄の仕掛けを手に漁や洋上生活を解説。「メカジキが食べたくて船に乗った」

の言葉通り、カレーや刺し身などのメカジキの「食」の話も豊富で、児童たちは興味深げに話を聞いていた。

高橋洋太君は「気仙沼は水産業が魅力的だとあらためて感じた。大好きな日本のメカ

ジキの魅力を、まだ知らない人にも伝える方法を考えたい」と話した。あす6日には、児童たちはメカジキを使ったカレーの調理実習に親子で挑戦する。



メカジキの物(角)に興味しんしんの児童